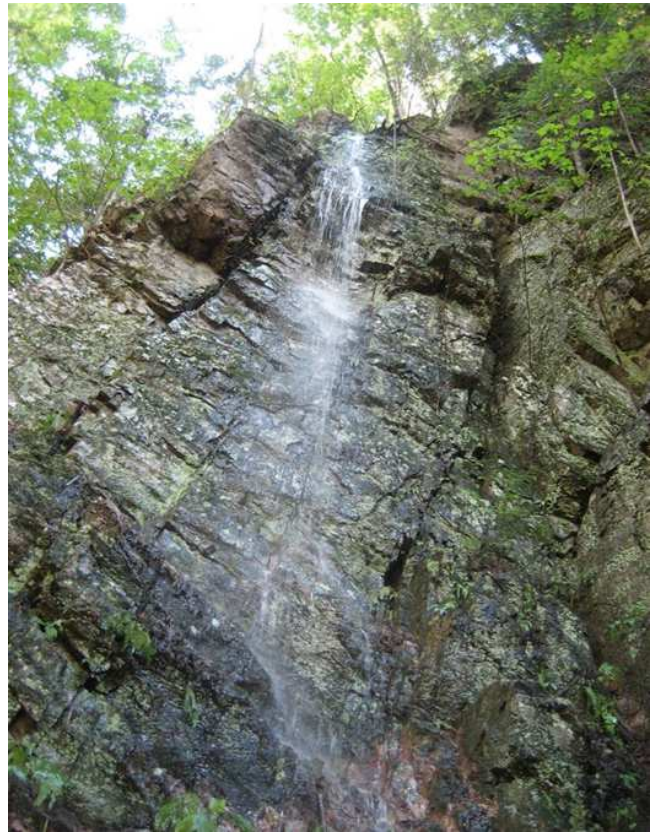


復元された幻の滝 「旭の滝」(農業用水路 上堰・町川用水)



旭の滝



町川用水

木曾郡木曾町日義地籍には、水田を潤すために嘉永6年(1853年)に築造された上堰(上野原井水)と、江戸時代以前に築造された町川用水があります。

木曾川支流の野上川から取水された水は、険しい山腹の下段を町川用水、その上段を上堰の2系統の水路により、受益である約20ヘクタールの水田へと運ばれています。国道19号沿いの木曾義仲(旭將軍)ゆかりの南宮神社境内には、町川用水の自然豊かな石積水路の緩やかな流れと、上堰の岩盤から水が流れ落ちる美しい「旭の滝」を見ることが出来ます。

この滝は、南宮神社本殿裏に水路を築造するために岩山を掘削したことから形成されたとされていますが、昭和初期には消失してしまったとのこと。

平成26年9月に南宮神社の氏子でつくる祭礼委員会により160年ぶりに復元され、合わせて滝の下流には新たな池が造成されて境内を流れる町川用水へと合流するようになりました。

苔が張りついた高さ約20メートルの険しい岩盤を、滝は白い水しぶきをあげながら流れ落ち、周囲の自然と調和したすばらしい景観を形成しています。

当時の水路築造の歴史と木曾ならではの自然豊かな風景を感じながら、地域の人から親しまれ保全されるとともに、急峻な地形により滝が多い木曾地域の新たな観光名所となることが期待されます。

(木曾地方事務所農地整備課 E・T)